

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ひこばえの心を持ち、強く・かしく・美しく生きる子どもの育成を図る。	(1) 小中連携による確かな学力の向上及び主体的・対話的に学ぶ態度の育成を図る。 (2) 人を思いやる豊かな心の育成及びふるさと大浦を誇りに思う心の育成を図る。 (3) 粘り強く健やかな体の育成及び自他ともに命を大切にす児童の育成を図る。 (4) 学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実を図る。

3 目標・評価

①小中連携による確かな学力の向上と主体的・対話的に学ぶ態度の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	①基礎的、基本的事項の確かな定着 ②家庭学習、家庭生活習慣の定着	①チャレンジタイム・ステッププリント等に取り組むことにより、国語科と算数科における評価テストの知識・理解、技能項目で、年間到達度80を上回る児童を80%以上とする。 ②ひこばえがんばりカード等を活用して、学習、生活習慣の定着を図り、「目標達成できた」と答える児童を80%以上とする。	①チャレンジタイムとして、言葉・計算の時間を設定する。内容の検討を定期的に行い、質を高めていく。級外職員も配置し、二人体制で行う。 ②学期に数回実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。
	○校内研究の推進	①言語活動を取り入れた国語科学習の工夫と改善 ②自信をもって表現する子どもの育成	①新学習指導要領に対応した学習活動を行うため、国語科を研究教科とし、指導の工夫と改善を図る。 ②授業の中で、児童が明確な根拠がある考えをもつことができるようにする。	①国語科の各単元において、児童につけたい力を検討し、それに応じた言語活動を仕組む。また、全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ②個人で考える時間(アタックタイム)、ペアで考えを交流する時間(ペアタイム)、みんなで考えを交流させる時間(みんなでタイム)を授業の中で確実に取り入れ、根拠をもった考えをもたせるよう仕組むと共に、友達の意見を聞いて考えを深めさせる。
	○教育の資質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICTを活用した授業の推進	・アンケートで「ICT活用に関わる教材を活用した授業ができた」と答える職員を90%以上にする。	①電子黒板に関わる電子教材を充実させ、担任が活用しやすいように情報を提供する。 ②Skypeを用いた遠隔授業を実施する。

②人を思いやる豊かな心の育成とふるさと大浦を誇りに思う心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	①道徳科の充実 ②教育相談・特別支援教育の充実 ③人権意識の向上	①道徳の授業を充実させる。6月の日曜参観時に全学級でふれあい道徳の授業を行う。 ②毎月子ども支援会議を行い、全職員で共通理解を図る。 ③教育相談週間を設けて、担任が児童と話す機会を設定する。 ④QUアンケートを実施し、その分析を通して対策を考える。 ⑤全校朝会での話や、人権週間・人権集会等の取組を通して、人を思いやる心や命を大切にす心を育てる。	①6月に「ふれあい道徳」の時間を設定し、保護者へ啓発のための学級通信を発行する。 ②毎月第2水曜日に子ども支援会議を行い、全職員で共通理解を図り、支援にあたる。 ③9月の「教育相談週間」に担任と児童一人一人と話す時間を設定し、児童の状況を把握するとともに信頼関係を築く。 ④年2回(6月・12月)QUアンケートを実施し、学力テスト(CRT)とのバッテリー分析を行い、より児童の実態に沿った支援や対策を行う。 ⑤全校朝会で担当者が話をして、人権意識を高められるようにする。8月に平和集会、11月に人権週間、花の鑑賞会(人権集会)を行う。
	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止	①毎月心のアンケートを実施する。 ②いじめ未然防止のための職員研修を行う。	①心のアンケートを実施し、いじめの前兆を早期にとらえて迅速に対応にあたる。 ②職員研修を行い、職員のカウンセリングマインドの向上につとめる。
	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	①ふるさと大浦や佐賀に愛着を持っていると回答する児童を80%以上にする。 ②アンケートで、「郷土の資源(人的・物的)を生かした学習活動を年間2回以上行った」と答える職員を90%以上にする。	①生活科や総合的な学習の時間等において郷土の資源(人的・物的)を生かした体験活動や表現活動を計画・実践する。 ②各担任が、地域コーディネーターと連絡・調整して外部や地域ボランティアと連携した学習活動を計画・実践する。
	○生徒指導	①安全・防災意識の向上 ②生活指導の徹底	①関係機関と連携して安全・防災意識が高まるような効果的な安全指導、避難訓練を計画的に行う。 ②職員の共通理解による指導を徹底する。 ・アンケートで、「大きな声であいさつ」「正しい廊下歩行」「無言掃除ができる」児童を80%以上にする。	①安全指導や避難訓練についてプロジェクトで話し合い、児童の安全・防災意識が高まるような活動内容を工夫して計画的に行う。 ②各教室、校内にめあてを掲示する。 ・全校朝会、集会、放送等でよい行いを紹介し意識付けをする。 ・全職員共通理解のもとで、見かけたらその場で指導を行う。

③粘り強く健やかな体の育成及び自他ともに命を大切にす児童の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	①望ましい生活習慣の形成 ②体づくりの推進	①ひこばえがんばりカードを学期ごとに実施し、生活習慣の定着と家庭との連携を行う。 ②学期ごとの体育的な行事等において体力向上の推進を行う。	①ひこばえがんばりカードを活用し、「早寝早起き朝ごはん」の基本的な生活習慣の定着をめざして、指導(声かけ・コメント)する。 ②各行事で、自分なりのめあてをもたせ、その達成をめざして努力することを促す。
	○特別活動の充実	主体的に取り組む活動の充実	①児童が活躍できる学校行事や集会等を設定する。 ②表現力・思考力が発揮できる「コンクールへ参加した」と答える児童を80%以上にする。	①児童集会の中で、児童のアイデアを取り入れた委員会紹介を行う。学期はじめに活動の見通しを持たせ、学期末には活動の振り返りや発表を行う。 ②各種コンクールを児童、保護者へ適宜紹介する。

④学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標の周知、徹底	・重点目標を策定して保護者、児童、教職員への周知徹底度を80%以上とする。	・学校教育目標について、学校だよりやPTA総会で保護者に説明する。 ・学校教育目標について、児童に全校朝会等で説明する。 ・学校教育目標、今年度の重点目標と職員の業績評価、学級目標等との関連付けを図り、学校運営力を向上させる。
	○学校運営力の向上	①ブロック制による学年経営 ②プロジェクト制による校務運営 ③各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	①アンケートで、「取組(地域連携やPTA行事等)について情報を共有し、必要に応じて管理職への『報・連・相』を行いながら、内容・方法の工夫や改善を行った」と答える職員を80%以上にする。 ②アンケートで、「プロジェクトの会議決定を基本とした取組ができた」と答える職員を80%以上にする。 ③アンケートで、「担当分野の内容改善を進んで行った」と答える職員を80%以上にする。	①ブロック主任、各役員は年間を通じて、日常的に情報の共有を行う。特にブロック主任は、意図的・計画的に教育活動が行われるよう進捗状況を把握する。 ②取組が主体的・組織的に行われ、児童にとって有効なものとなるよう、プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組での重点事項について内容・方法の検討や改善を行う。 ③各担当の内容について、職員会議での提案や連絡会での連絡を欠かさず行い取り組む。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	①長時間労働の解消 ②業務改善と環境整備 ③業務移管等による取組	①定時退勤実施率100%を目指す。 ②行事や会議の効率化、校務分掌の平準化、校務サーバー等の活用による効率化が心がけられたと答える職員を80%以上にする。 ③学校集金の処理が効率よくなったと答える職員を90%以上にする。	①毎週金曜日を「定時退勤日」として定めて周知徹底を図る。また、職員の在勤時間を正確に把握して取組の充実を図る。 ②年度末作成の「引き継ぎ書」、校務サーバー、毎月開催のプロジェクト会議を有効活用して、各担当者が効率的な業務を遂行できるようにする。 ③学校集金の事務職への移管により、事務処理の効率化を図る。